

とほかんだより(学而)

No. 88

2008.1

「^{がくし}学而」 = 学而時習之、不亦説好乎。(「論語」より)—— 学^まびて時^{よろこ}にこれを習う、亦た説^まばしからずや ——

第2回(2007年度)摂南大学図書館書評大賞決定!

第2回(2007年度)摂南大学図書館書評大賞には22篇の応募がありました。

各学部選出の図書館運営委員の先生方による厳正な審査の結果、受賞者が決定しました。

大賞

氏名(所属)	金 宇 振 (大田大学校 留学生)
対象図書	「約 束」 石田 衣良 著

優秀賞

氏名(所属)	窪之内 彩 (外国語学部 3年)
対象図書	「ベトナムの「子どもの家」ストリートチルドレンと生きる日本人」 岡本 文良 著
氏名(所属)	入米蔵 由季 (外国語学部 3年)
対象図書	「不都合な真実 地球温暖化の危機 ECO入門編」 アル・ゴア 著

佳作

氏名(所属)	小林 佑輔 (外国語学部 3年)
対象図書	「イル・ポスティーノ」 アントニオ・スカルメタ 著
氏名(所属)	淡路 拓也 (薬学部 3年)
対象図書	「空の中」 有川 浩 著
氏名(所属)	田中 千裕 (薬学部 3年)
対象図書	「夜と霧」 ウィクトール・E. フランクル 著

今年度の応募者は全学部にわたっており書評活動がようやく全学に浸透してきたと言えます。大変うれしいことです。しかも力作が多く審査過程で大変苦労しました。特筆すべきは今年度の大賞受賞者が韓国大田大学校の留学生だったことです。この書評は審査員全員から高い評価を受け、見事大賞に輝きました。内容のまとめ方、伝え方、文章の運び、読み易さ、いずれの面においても優れており、最後に読み手を引き込む筆力がありました。

今回の書評に関して全体的に言えることは、この2年間で書評というものがどういうものかが学生にわかってきたのではないかと思います。書評する人間がどういう視点で本に取り組んだか、どのように本の中身を伝えるか、その本の良さはどこにあるか、それがどのように現在の自分と関わっているか、そのことで読み手が思わず「自分も手に取って読んでみたいなあ!」と思わせる書評がいくつかありました。ただし、文体の不一致、たとえば、「です」「ます」体が混在していたり、

また、段落がやたら多かったり、少なかったり、主語と述語の関係が適合していない書評もいくつかありました。だが、全般的には平易で読み易い書評になっていたのではないかと思います。

審査は昨年度同様、応募者の所属・氏名・学年を伏せて提出された書評作品のみを対象として各審査委員に見ていただきました。各審査委員は上位6名に序列をつけて選出し、その結果を集計して入賞者を決定しました。幸い上位6つの書評は各審査委員の間で重なる作品が多かったことからほぼ一致した評価が得られたと考えています。ひとつの作品を読んでまとめるという行為は思考の訓練および表現する力を養うのに必ず役立つものであり、こうした活動に一人でも多くの学生が今後とも参加することを希望しています。



第2回摂南大学図書館書評大賞決定! …… 1	文化講演会「松沢 哲郎 氏」…………… 3
文化講演会「水野 幾郎 氏」…………… 2	INFORMATION …………… 4

図書館主催2007年度文化講演会

第1回 2007年10月16日開催

「楽しく生き抜くために！」

ろっかくてい
「六覺燈」代表取締役 水野 幾郎 氏

館長の挨拶後、水野氏の第一声は「今からお金が儲かる方法を教えます。お金は寂しがり屋だから、大事にすることです。お札に皺しわなどないですか、お金は大事にする人のところに戻ってくるんですよ」だった。この第一声で会場の空気を和ませた。そして、実体験からの具体的な話を織り交ぜながら、最後に、「楽しく生き抜く」ことは結局、「楽しく生きることを自ら追い求めることだ」という話を90分された。参加者には大変感銘を与えた講演となった。

「常にプラス思考でマイナスをプラスに変える」「笑顔をもって明るく生きる」、「ないものねだりはしない」ということの3点を繰り返された。このことを常に心がけることで、人生が大きく変わってくる、と強調された。仕事は真剣勝負であり、その中で感謝の気持ちと引き算の心をもつことが大事だと言われた。

まず、仕事は好きな子を口説き落とすようにやれ、と言う。最高のサービスは、好きな子を初めて家に招待するときの心遣いに似ている。現実にはそれがなかなかできない。実際、仕事で成功するのは針の穴から天を覗くほどの確率しかない。だから、社会ではゲームやカラオケやゴルフがどんなに上手でも褒めてくれない。褒めてもらえないようなことをしてはいけない。



世の中に好運など転がっていない。料理人は神様なんて信じていない。神様は罰を与えるだけだから。罰をも

らわないようにすることだ。神様を信じている人が失敗すると決まって、「運が悪い」と神様のせいにする。

また、ありがたいことばが上手に言えることも大事だ。「今日家に帰ったら、お父さん・お母さん、あなたに私を生んでもらったことを感謝しています。あなたが好きです。」、と一番身近な人間に「ありがとう」が言えるような人間になさい。謙虚な気持ちをもつことだ。

次に、生きていく上での引き算の大切さを強調した。これは、たとえば、料理人の世界で言うところの灰汁あくをとることだ。たまねぎはそのまま食べようとすると目が痛む。オニオンスライスしてギュッと絞って食べるからいい。これは余計なものをとってたまねぎの良さを出すことである。足し算の世界ではどんなに広い場所があっても足らなくなる。たくさんあると盗られるだけだ。やる気もとられる。自分の人生だから自分を大事にする。そして、心の部分を養う。これが引き算の心である。

最後に、他の人と同じでなくていい、と言う。だが、周りの人たちとよく議論することが大事だ。相手とかかわりを持つことで、そこから違うものが得られるからだ。どれだけ可能性をもっているか、ちょっと変わっただけで大きく変わることを心がけよ、と言う。そして、最後に絶対に勝ち組に入ろう、と結んだ。その後、活発な質問が学生からあり講演会が終わった。

注：「六覺燈」は東京の銀座と大阪の日本橋に店舗があり、水野氏は昨年オーストリア政府から長年にわたるワインの交流に尽くした功労者として、外国人として初めて同国から栄誉功労賞金賞を授与された。

摂南大学図書館 文化講演会

京都大学霊長類研究所所長

松沢哲郎先生講演会

演題「チンパンジーの親子と文化」

第2回 2007年11月28日開催

「アイちゃんは研究のパートナー」

— 松沢先生の講演を聴いて —

経営情報学部 教授 福田 市朗

図書館が主催する文化講演会に京都大学霊長類研究所所長の松沢哲郎先生をお招きし、“チンパンジーの親子と文化”について貴重なお話を聞くことができた。当日、会場は学生や教職員の方々に満席。私達人間に最も近いとされるヒト科チンパンジーの知られざる一面に触れ感動できたのでは、と思う。

松沢先生は京都大学大学院博士課程在籍中に犬山の霊長類研究所の助手となり、その数年後に母親から引き離された“アイ”ちゃんを育てることになる。

当時、チンパンジー研究は欧米が主流で、チンパンジーはどれほど賢いかという一種の“智恵実験”が盛んに行われていた。特に、文字や数字などのシンボルをどれほど理解し、扱うことができるかというテーマが取り上げられていた。松沢先生もシンボル操作の研究に従事し、その成果が『ネイチャー』という世界的な科学誌に掲載され、話題になったことがある。

しかし、そのころ、「アイはすごく頭がいい。もし、私の研究によってアイの能力に限界があると結論されるなら、それは私の研究方法に問題があるからだ。」と自らを戒めるように話していた。松沢先生は、チンパンジーを単なる研究対象と見るのではなく、知能について共に考える研究の“パートナー”と捉えていたように思う。京都を訪れた女性外国人研究者が私に「松沢先生の研究には“愛情”を感じる」と話したほどである。その後の研究成果はまさしくアイちゃんとの協働研究の

成果といわざるをえない。

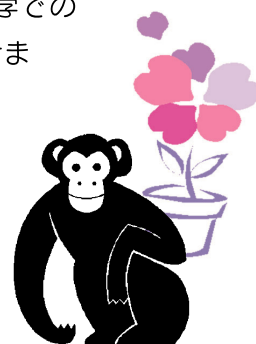
松沢先生はテレビなどで面白おかしく放映される動物行動についてかなり批判的である。あまりに不自然であるからである。人間と動物との関係が強制されればされるほど、動物たちの本来の姿が失われる。講演の中で、松沢先生が私達に語りかけた一つは、チンパンジーの親子がどのように向き合っているかという親子関係の観察であった。その姿は人間の親子関係と異なるが、子どもと向き合う際に最も大切なことは何かを伝えるに十分であった。

現在、松沢先生たちの霊長類研究は世

界をリードするほどに発展を遂げ、世界中から注目されている。チンパンジーに対する科学的認識とパートナーとしての

思いやりが研究を支えてきたからに違いない。研究は正しい理解を求めることであって、決して研究対象者を管理し支配することではない。教育も全く同じである。

最後に、松沢先生は本学での講演について大変満足できたと話されて、アイちゃんとアユム君が待つ犬山に帰られた。講演会の成功は松沢先生とそれを熱心に聴いた学生諸君との協働作業の成果であったと思う。



INFORMATION

図書館カレンダー(2008年1月～3月)

本 館 (寝屋川校地)						
1 月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		
2 月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	
3 月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

分 館 (枚方校地)						
1 月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		
2 月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	
3 月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

【表示凡例】黒字 開館時間 9:00 ～ 19:00

黒字 開館時間 9:00 ～ 16:50

赤字 開館時間 10:30 ～ 16:50

▼ 卒業見込者図書資料の返却最終期限

※都合により、臨時閉館することがありますので、ご注意ください。お願いします。

赤字 休日・休暇等による閉館

黒字 入試実施による臨時閉館

←→ 棚卸のため終日休館予定

編集後記

あけましておめでとうございます。今号は昨年開催された「講演会」を特集しました。図書館は、皆様方にとって、“文化の香りのする憩いの場” になりたいと願っています。本年もよろしくお願いします。



摂南大学図書館報「としょかんだより (学而)」No.88 2008.1

編集・発行 摂南大学図書館 本 館 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL.(072) 839-9111

枚方分館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1 TEL.(072) 866-3102

印刷 株式会社ミトヨ 〒534-0002 大阪市都島区大東町2-13-10 TEL.(06) 6922-1178